

新幹線プレス



2024年8月4日

No.671

発行者 伊藤一也

編集者 教宣部

JR東海労新幹線地本

東京運輸所分会第4回定期（解散）大会開催！33年の歴史に幕！

班体制移行に向けて成功裏に終了

新幹線地本東京運輸所分会は、7月16日、第4回定期大会を開催し、分会を解散し運輸所班に移行し、新幹線地本一体の体制にする事を確認しました。分会は、東京運輸所から運輸所分会へ移行して33年の歴史に幕を閉じました。48A都労委闘争やのぞみ減速闘争、年休闘争など創造的な闘いを振り返り、これまでの苦闘を確認し、今後の闘いについての意思統一を行いました。



大会は斉藤副委員長の司会ではじまり、永井委員長は、『今回で分会は解散し班となる。出向者交流会を開催して勤務時間、賃金の未払い、過払い、パワハラ問題など団体交渉など改善してきた。関西サービックに出向させられた4名がそこ

で働く仲間と共にJS労を結成した。東運分会は、組織拡大は実現できていないが他労組組合員と関わりを強化している。残念ながらJR総連は統制委員会を設置したがJR総連と全国の仲間と共に労働運動の発展のために統制委員会の撤回に向けて闘う。そして森下さんを支えていく。年休が入らない、業務改革のもとに過酷な行路、新人事賃金制度での見直しでの降格など、ユニオンの若手はリニアを抱えて将来展望を口にしている。組織拡大を。』と挨拶しました。

来賓として、本部淵上委員長、新幹線地本杉澤副委員長のあいさつがありました。

その後4名の組合員から『出向先の団体交渉によって改善してきた。統制委員会の撤回を求めて闘う。これまでの年休裁判をはじめ東海労の闘いの継承を。本体では年休問題や人事評価制度が正しくできるのかなど多くの問題がある。』との発言があり、これを受けて、木下書記長が『出向者の労働条件の改善と本体の仲間作りを通じて組織拡大を実現していこう』と総括答弁を行い、今後も地本方針に基づいて闘うことを確認しました。